

☆***☆***☆***☆***☆***☆***☆***2024. 9. 18**☆

60 歳からの人生を準備するための
【人生の添乗員 (R)】からのワンポイントメッセージ

老後のことは退職前に決めておく

発行者：牧野 F P 事務所合同会社代表社員 牧野寿和

牧野 F P 事務所公式サイト：<https://www.makino-fp.com>

☆***☆***☆***☆***☆***☆***☆***通算第 612 号***☆

<目次>

- ◆ 今週のテーマ
- ◆ 今週のポイント
- ◆ 編集後記
- ◆ 「人生の添乗員」牧野寿和のプロフィール

:

- ◆ 今週のテーマ

老後のことは退職前に決めておく

:

A さん：定年退職後のことは、
今は仕事で忙しいので、
退職してからじっくり考えます！

B さん：あと定年退職まで 2 年となり、
退職後のことは、一応決めました。

A さんと B さんとは、
どちらが、定年退職後の人生を
楽しむことができるでしょうか？

筆者としては、
B さんの方がより現実的だと
考えます。

しかしBさんの方が、
用意周到ではありますが、
それでも実際に老後を暮らすには、
紆余曲折があることでしょう。

そこで今回は、
老後のことは、退職前の現役中に
どの程度、決めておいた方がいいのか、
考えてみることにします。

お伝えする内容は次のとおりです。

- ・ 現役時代と退職後に変わること
- (1) 家計
- (2) 生活
- (3) 身体能力
- ・ 老後の準備はいつできる
- ・ 退職金の使い方

現役時代と退職後に変わること

まず、現役時代と退職後で変わることを、
考えてみることにします。

(1) 家計

家計の収支は、
完全リタイアをすれば、

収入の面で、給与や事業所得といった、
定期的な収入がなくなります。

また、原則公的年金は、
65歳からの受給ですので、
65歳前に退職すれば、

一時的にせよ、
収入が途絶える時期が生じます。

また、支出の面では、
退職しても、
急に生活費を減らすのは、
難しいことを、
誰もが、自覚できることです。

食費や被服費などは、
年齢とともに、減る傾向にはあります。

代わりに、医療費や介護の費用が、
必要になるかもしれません。

老後の生活で、収入が減っても、
支出はさほど変わらない。
その対策としては、

収入を現役時代まで増やすのは、
老後の生活では、
不可能に近いので、

事前に、支出を減らしておくこと。
また、事前に貯めておいた資金や、
退職金などを取崩して、
活用することになります。

(2) 生活

勤めている間の休日は、
何もすることなく
一日が過ぎることもあるでしょう。

しかし、平日は何時に起きて、
何時に家を出て、何時までに会社に着く。

また何時までは、就業時間といったように、

スケジュールが決まっています。

その分、毎月の家計の支出も大きな変化は、
起こりにくいのです。

老後の生活では、
1日24時間、または1週間、いいえ毎日を、
自分で好きなようにプランニングができます。

ただ、プランの内容を間違えたり、
また老後の生活に入っても、
その日の生活は、その日起きてから決める。
といった生活が定着すると、

家計の支出額も不安定になり、
現役の時代より支出額が増える月が出て、
その分、貯蓄も底を着きかねません。

(3) 身体能力

介助なくひとりで自活した生活ができる
健康寿命は、
男女ともに、70歳代の前半です。

言い換えれば、
60歳代に定年を迎えれば、
健康寿命までの期間は、
10数年と限られています。

身体能力が衰える前に、
思う存分活動しておきたいものです。

その10年間に何をするか、
現役時代の思いを実現するのに、

老後の生活に入ってから
準備を始めても、
十分、間に合うでしょうか？

老後の準備はいつできる

前述していますが、
現役時代は目の前の仕事で忙しいので、

老後の生活は、
その時になってから決めると、
言われる方がみえます。

そのような方に、
大変酷な言い方にはなりますが、

会社は組織で動いていますので、
あなたがいなくなっても、
会社は、回っていきます。

しかし自分のことは、
自分で決めないと、
誰も、決めてはくれません。

また、繰り返しになりますが、
退職後の健康寿命は、10 数年でも、
平均余命は、20 年以上あります。

しかも収入は、年金中心となり、
支出は、当面は現役時代と変わらない。

貯蓄や退職金を取崩して、
また、人によっては、
個人年金保険や金融商品などで、
事前に準備しておいた資産で、
生活をするかもしれません。

これらのお金の使い方を間違えると、
生活が破綻しかねません。

そのようにならないために、

対策を打つのは、
退職後でいいのでしょうか？

現役の時代とは違って、
「手遅れ」は、
人生の致命傷に何かねないのです。

退職金の使い方

このように考えますと、
退職金の使い方も大切になります。

退職金で、
「住宅ローンの残りを完済することだけ、
決めている」といった話を
聞くこともあります。

退職金を、老後の生活費に使う
シミュレーションをして、
そこで残ったお金（余剰金）を、
借入金の返済に使うならまだしも、

老後の生活費を考えることなく、
借入金の返済ありきの
退職金の使い方をすれば、
70歳代後半以降の老後の生活が、
厳しくなりかねません。

これらを防ぐためには、
時間を惜しまず、退職後のことは、
現役時代に立案しておくことです。

また、実際に老後の生活に入り、

不具合は、生涯修正することも必要です。

不具合を修正するにも、
基となる原案がないと難しいでしょう。

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*

◆ 今週のポイント

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*

自身や夫婦の老後の生活案を

現役時代の決めておくことは、

人生、最重要プロジェクトです！

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:

◆ 編集後記

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:

20代で就職して、
退職まで約40年、

退職後、
100歳まで約40年、

勤めている間に学んだことは、
忘れないうちに文字に起こして、
自身の老後に、生かすべきでしょう！

:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*

◆ 「人生の添乗員 (R)」 牧野寿和のプロフィール

::*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*:*

日本で唯一「人生の添乗員 (R)」を名乗れる
公正中立な独立系ファイナンシャルプランナー
創業 21 年目
1958 年 名古屋市生まれ、大学 (東海大学卒業)
以外は、名古屋で居住。

1982年～2001年 旅行会社に勤務。
業務で世界各地を廻っていた時、
日本の方と他国の方々の
お金との付き合い方の違いを感じていた。
そんな時渡米した折に、
初めてファイナンシャルプランナーの
存在を知り、
日本でもこの業務の必要性を認識する。

2003年 牧野FP事務所を創業。
2018年から牧野FP事務所合同会社を設立。
これまでに、
延べ1100件以上の様々な相談に対応。

相談者へのプランニングの助言と提案を
主な業務とし、
相談者に、安心できる生活が送れるように、
丁寧な業務を心がけている。

<保有資格>

- ・NPO 法人日本ファイナンシャルプランナーズ (FP)
協会 CFP (R) 認定者
- ・1級ファイナンシャル・プランニング技能士
(資産設計提案業務)
- ・福祉住環境コーディネーター
- ・総合旅行業務取扱管理者 など

<取材協力>

メ～テレ (名古屋テレビ) 「UP！」

<執筆>

「銀行も不動産屋も絶対教えてくれない!
頭金ゼロでムリなく家を買う方法」河出書房新社

<監修>

「空き家」に困ったら最初に読む本」河出書房新社

現在、相談は、名古屋市内はもとより愛知、岐阜、三重県、首都圏や関西にもリモートでお会いする機会が増えました。

「人生の添乗員（R）」は、他人を気にすることなく、相談者ご自身にとって有益な提案を心がけています。

◆ 【人生の添乗員(R)】からのワンポイントメッセージ

発行：牧野FP事務所合同会社 代表社員 牧野寿和
〒467-0823 名古屋市瑞穂区津賀田町2-86

◆登録・解除は、ご自身でお願いいたします
こちらから出来ます

<http://www.mag2.com/m/0001575058.html>

◆本メルマガに関するご意見・お問い合わせは
こちらまでお願いいたします

E-MAIL : makino.fp@beach.ocn.ne.jp

牧野FP事務所合同会社

公式サイト : <https://www.makino-fp.com>

◆記事内容に関してのトラブル等について当方では
一切責任を負いかねます
ご自身の責任でご判断下さい

「人生の添乗員」「人生の行程表」は、
牧野寿和の登録商標です
